

Event Information

仙台市博物館紹介展示

「伊達政宗と仙台の歴史」

入場無料

「伊達政宗所用 黒漆五枚胴具足」のレプリカを展示しているほか、博物館の代表的な所蔵資料等をパネルで紹介しています。

【会場】 仙台国際センター会議棟1階 エントランスホール

【期間】 令和5年3月31日(金)まで(予定)

【時間】 9:00~21:30

* 休館日は仙台国際センターの休館日に準じます。



▲黒漆五枚胴具足
伊達政宗所用(レプリカ) 部分

問 仙台市博物館 ☎ 022-225-3074

当館所蔵の資料が福岡に!

特別展

「独眼竜 伊達政宗」

会場(主催):福岡市博物館

期間:令和4年10月8日(土)~
11月27日(日)

仙台藩初代藩主・伊達政宗の人柄を伝える直筆の書状や肖像画、具足のほか、支倉常長像をはじめとする国宝「慶長遣欧使節関係資料」など、当館所蔵の名品から約100点を展示予定です。

仙台市博物館のグッズ・刊行物のお求めは

カネイリ ミュージアム ショップ

KANEIRI Museum Shop6

せんだいメディアテーク1階の「KANEIRI Museum Shop6」で、博物館オリジナルのグッズや刊行物(仙台市史以外)を販売しています。店頭がない当館グッズや刊行物をご注文いただくこともできます。

*お求め方法など詳しくは、博物館ホームページをご覧ください。

KANEIRI Museum Shop6

【所在地】 仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク1階

【営業時間】 10:00~20:00

* 店休日は第4木曜日、12月29日~1月3日

(せんだいメディアテークの改修工事に伴い、令和4年8月9日(火)から10月31日(月)まで臨時休業予定です。)

問 KANEIRI Museum Shop6 ☎ 022-714-3033

活動報告

見て・聞いて・想像して・動いて…

仙台市博物館を体感!

5月6日(金)~24日(火)、博物館を飛び出して、せんだいメディアテークで体験展示「伊達政宗とお祭りひろば」を開催しました。親子で楽しみながら仙台の歴史や文化に出会いきっかけとなつてほしい、そんな願いから、「体験する展示」を主としたこの「お祭り」は、たくさんの来場者でにぎわいました。



▲体験イベントのようす

博物館友の会

博物館の休館中は、会員限定のセミナーや講座にご参加いただけるほか、友の会だよりや博物館からのお知らせなどがお手元に届きます。

【会費】

3,000円(学生2,000円)

【期間】

令和3年4月1日~令和6年3月31日

入会を希望される方は、
博物館へお問い合わせください。

休館中の

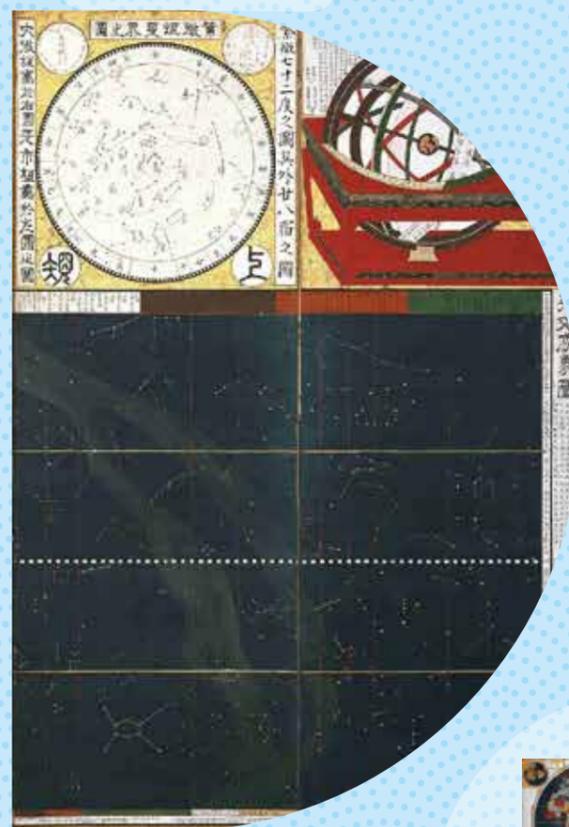
仙台市博物館 だより

HAKUBUTSUKAN DAYORI

vol.
205

2022.6月

2022.8月



▲天文図屏風(部分)

資料の全図



(大きさ:各たて176.3cm×よこ363.5cm)

上の絵は、イタリア人宣教師が制作した図をもとに描いた世界地図。左の絵は、1773もの星と天の川などを描く天文図。どちらも仙台藩の岩出山(宮城県大崎市)出身の天文学者・名取春仲(1759~1834)が描いたものです。

表紙の資料
こんよばんこく
天文図・坤輿万国全図屏風
より各部分
仙台市博物館蔵

仙台市博物館

〒980-0862 仙台市青葉区川内2-6 仙台城三の丸



仙台市博物館 イベントの開催など最新の情報をホームページでお知らせしています。

TEL 022-225-3074

FAX 022-225-2558

※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、イベントが中止となる場合があります。
※再生紙を使用しています。この印刷物はリサイクルできます。



歴史と文化を未来につなぐ SENDAI CITY MUSEUM
— 観る、知る、楽しむ。学んで、考える博物館 —

資料をみる目 いろいろ

歴史 × 美術 × 子ども

歴史の目 だれを描いた？

支倉常長は、1613年(慶長18)、仙台藩初代藩主の伊達政宗が、外交交渉のためメキシコ・スペイン・ローマに派遣した家臣です。キリスト教徒が使う数珠(ロザリオ)を持ち、十字架へはりつけにされたキリスト像に祈る場面が描かれています。1614年、常長はスペイン国王らが列席する洗礼式でキリスト教徒になりました。この絵は、その後の1615年にローマで制作されたようです。

ユネスコ記憶遺産・国宝 支倉常長像

仙台市博物館の代表的な収蔵品のひとつ「支倉常長像」について、歴史的な背景や肖像画としての特徴などを紹介します。



美術の目 どうやって描いた？

油絵で描かれた支倉常長の肖像画です。実在の日本人を描いた油絵として、日本国内に現存するものでは最も古い作品です。手をあわせてキリスト像に祈りを捧げる常長の姿が、迫真的に描かれています。

表情に注目してみましょう。眼は少し斜め上を向いてしっかりとキリスト像を見つめ、顔の筋肉は全体的に引き締まっています。額から眉やまぶた、鼻筋、頬、口元、顎など、細部に至るまで力がこもり、常長の意思の強さを感じさせます。頬の血色や、髪の毛の生え際に見えるわずかな白髪などは、常長本人を前にして描かれたことを思わせる見事な表現です。



部分

子どもの目

- Q 絵に描かれている人はだれ？

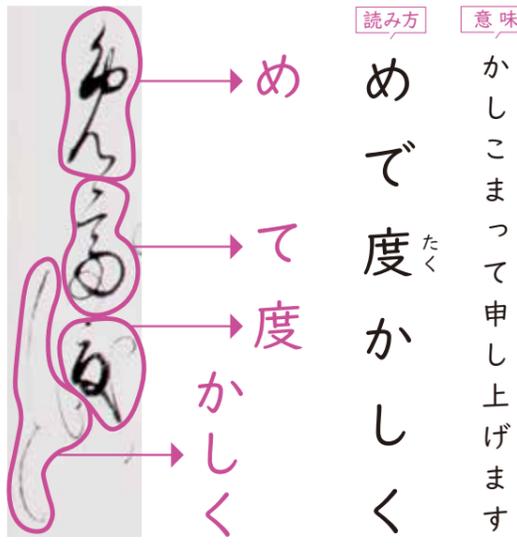
A この人の名前は支倉常長。常長は伊達政宗の家来で、政宗より3歳年下だよ。政宗の命令で外国に向かう人々の代表に選ばれた常長は、外国で優れた人物と言われたんだって。
- Q いつごろ、どこで描かれた絵なの？

A 今から400年くらい前、イタリアのローマで描かれたとみられる絵だよ。とても貴重な絵として、ユネスコ記憶遺産(世界の記憶)に登録されているんだよ。
- Q 絵の真ん中にある、しわのような縦の線は何だろう…。

A 当時、日本はキリスト教を信じることを禁止したんだ。キリスト教に関わるものを持っている人は取り上げられることもあったんだよ。この絵の縦の線は、持ち主が折り曲げて隠した時についた跡とも考えられているんだ。

古文書ワンフレーズ

女性の手紙



江戸時代、女性の手紙の末尾によく使われた定型句です。相手への敬意をあらわす「畏」に、「目出度し」をつけて相手を敬った言葉です。江戸時代、女性は仮名で手紙を書くのが一般的でした。また、男性が女性に宛てる場合も主に仮名を用いました。仮名の「かしく」は、大きくくずして書かれていますが、これが定型の形として通用していました。



信恭院(錯姫)書状 伊達齊宗宛(部分) 仙台市博物館蔵

10代藩主伊達齊宗の夫人・錯姫が国許にいる夫に送ったもので、鏡箱の設えについて確認したいことなどが書かれています。料紙には鮮やかな牡丹と蝶が刷られており、錯姫の心遣いがうかがえます。

これ、なあに？ 道具でのぞく博物館

博物館で使っている道具を通して、博物館の仕事をのぞいてみませんか。今回は、学芸員が資料調査で使う道具の一部を紹介します。

調査で使うおもな道具

マスク
調査中にカビやほこりを吸い込まないため、また、飛沫を防いで資料を汚さないために必需品です。

鉛筆
資料にインクなどの汚れや傷がつかないように、筆記用具は鉛筆を使います。

物差し
資料の採寸をします。金属製・布製のほか、曲尺や折尺など資料に合わせて使い分けます。

調査用紙(調書)
調査内容を書き留めます。

布手袋
汗や手垢で資料を汚さないように、着用する場合があります。

ルーペやペンライト
細かい文字や模様のほか、資料の表面の状態を観察します。

博物館の重要な仕事のひとつに調査・研究があります。調査では、写真のような道具を使って資料の素材や制作方法、形態などを調べます。そうして得られた資料の基本情報をもとに研究を行い、その成果を展示等で紹介しています。

調べる! 休館中のミッション

休館中も資料の調査・研究を引き続き行っています。調査をもとに資料が作られた年代や経緯、目的などを考察し、そこから歴史をひもときます。そうした研究成果を展示や出版物、講座のかたちで多くの皆さまに知ってもらおうことが、地域の歴史や美術、文化を後世に伝えていく

ことにもつながります。また、学芸員には歴史・美術工芸などの専門分野があり、各々が調査・研究を行っています。その内容の一部は、毎年1回発行している『仙台市博物館調査研究報告』で紹介しています。



▲『仙台市博物館調査研究報告』第42号(令和4年3月発行)